

## 神奈川の研究者紹介

氏名	坂井 学（さかい まなぶ）	
現職	日本大学生物資源科学部 准教授 博士（獣医学）	
主な経歴	1997年 日本大学 農獣医学部 獣医学科 卒業 2003年 日本大学大学院 獣医学専攻 博士課程 修了 2016-2017年 オランダ ユトレヒト大学 客員研究員	
専攻分野・研究テーマ	獣医内科学 犬と猫の肝臓病における診断および治療に関する研究	
主要業績 （これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等）	<p>【著書】</p> <p>「猫の治療指針」共著、緑書房（2018） 「犬と猫の治療ガイド2015」共著、インターズー（2015） 「犬の腹部超音波診断アトラス」監修（共著）、インターズー（2014）</p> <p>【論文】</p> <p>Association of circulating microRNA-122 and microRNA-29a with stage of fibrosis and progression of chronic hepatitis in Labrador retrievers, Journal of Veterinary Internal Medicine (2018) Gallbladder agenesis in 17 dogs: 2006-2016, Journal of Veterinary Internal Medicine (2018)</p>	
神奈川県との 関わり	神奈川県獣医師会 会員、日本大学動物病院消化器科の診療 県内開業獣医師向けセミナー・勉強会 講演講師	
メッセージ	<p>【関心を持っている領域】</p> <p>家族の一員である犬や猫も、残念ながら人間と同様に病気になります。特に肝臓病は進行しないと症状が認められないため、沈黙の臓器とも言われています。そのため、診断が遅れ十分な治療を受けられないことがあります。そこで、動物の肝臓病に対する早期診断法（腹腔鏡検査、マイクロRNA）の樹立と、重症化した肝臓病に対する新規治療法（再生医療）の開発に取り組んでいます。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>日本大学動物病院は多くの診療科を有し、神奈川県に貢献できる高度な動物医療センターを目指し、日々努力しております。また、動物の病気の診断・治療から得られた臨床研究の成果は、人間の医療にも貢献できるものと考えています。是非、研究室や動物病院のホームページをご覧ください。</p>	
連絡先	日本大学 生物資源科学部 獣医学科 獣医内科学研究室、日本大学動物病院 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866	

神奈川の研究者紹介

氏名	立石 亮 (たていし あきら)	
現職	日本大学生物資源科学部 教授 博士(農学)	
主な経歴	名古屋大学大学院農学研究科修了後、日本大学助手、専任講師、准教授を経て平成29年4月から現職	
専攻分野・研究テーマ	園芸学(果樹園芸学・野菜園芸学)、とくに果実品質に関する生理・生化学的研究	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p><b>【著書】</b></p> <p>「園芸生理学－分子生物学とバイオテクノロジー－」(共著)、文永堂出版</p> <p>「園芸作物保蔵論－収穫後生理と品質保全－」(共著)、建帛社</p> <p>「果樹園芸学」(共著)、文永堂出版</p> <p><b>【論文】</b></p> <p>「Opposite accumulation patterns of two glycoside hydrolase family 3 <math>\alpha</math>-L-arabinofuranosidase proteins in avocado fruit during ripening」, The Horticulture Journal 87 (2018)</p> <p>「Differential constitution in promoter region leads to a phenotype with a lower allergic actinidin level in yellow-fleshed kiwifruit (<i>Actinidia chinensis</i>)」, The Horticulture Journal 87 (2018)</p> <p>「Heterologous expression of tomato glycoside hydrolase family 3 <math>\alpha</math>-L-arabinofuranosidase/<math>\beta</math>-xylosidases in tobacco suspension cultured cells and synergic action of a family 51 isozyme under antisense suppression of the enzyme」, Physiologia Plantarum 150 (2014)他</p> <p><b>【委員・役員】</b></p> <p>一般社団法人園芸学会代議員、日本熱帯農業学会評議員・幹事・編集委員、日本ナス科コンソーシアム(JSOL)運営委員等</p>	
神奈川県との関わり	<p>神奈川県農業技術センター遺伝子組換え実験安全委員会委員</p> <p>過去に農業技術センターとカボチャの品質に関する共同研究、また、衛生研究所及び農業技術センターと果樹類のアレルギーに関する共同研究を実施しました。現在は、農業技術センターとトマトの異常食感形成のメカニズムについて共同研究を実施しており、同センター職員を日本大学研究員として委嘱しています。</p>	
メッセージ	<p>園芸生産物の品質に関わることを生化学的手法や分子生物学的手法で調べ、生産物の中で起こっていることを明らかにしようとしています。神奈川県とは農業技術センターを通じて共同研究を行っています。農業現場、特に園芸分野においての様々な問題についてその背景を明らかにできればと考えています。日本大学の優れた研究設備も利用して、これからも学術的連携を積極的に進めたいと考えています。</p>	
連絡先	<p>日本大学 生物資源科学部 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866 電話: 0466-84-3800 (代表)</p>	